

(様式3)

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>				
<b>1.理念と共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で、その人の個性を尊重し、尊敬の心を忘れず、馴染みの関係を築きながら、住み慣れた環境のもとで、その人の地域生活の継続を支援します。」		
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護専門職として自分たちはどのような方向に向かうべきか向かっていくのかを明確にし、かつ、具体的にどのようなものであるかを、すべての職員が把握できるよう、日々話し合い実践しています。		
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	定期的な家族交流会において、管理者が運営理念・重要事項等の説明を行い、理解と協力を得ています。また、地域の人々との交流を深め、シルバーホームの存在が周知され、認知症への関心が深まり理念が理解していただける様努力しています。		
<b>2.地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	公共施設に囲まれた立地条件から難しい課題ではありますが、外出の機会を多くもち(外食、散歩、買い物等)近隣の人々とのふれあい、気軽に立ち寄っていただけるよう声かけしています。		「災害対策」への備えとして、馴染みの関係をよりいっそう深めていきたいと思ひます。
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回のカラオケ喫茶では、馴染みの関係が確立しつつあります。地域の人々に歓迎され、お世話いただき楽しい一時を過ごしています。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ポーアイ4大学による連携事業のなかで、施設内の見学に来られています。神戸女子大学1・2回生地域学習受け入れ、兵庫医療大学看護学部助手実習受け入れ、関西福祉科学大学実習生受け入れしています。		今後も地域活動の中で提供できる場があれば、積極的に取り組みたいと考えます。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の受審での改善項目について、管理者、職員が話し合い、具体的に業務改善を行ない、入居者の生活に取り入れています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーから率直なアドバイスを頂き、日々の生活に取り入れています。外出の機会がふえ、生活の質の向上に努めています。会議の内容は全職員へ議事録等を通じ共有しています。		運営推進委員の助言で会議への参加を大学関係者に相談した結果、兵庫医療大学教授に出席していただく運びとなりました。専門的な介護【看護】の助言がいただけるものと期待しています。また、幼稚園、小学校、大学等への訪問に積極的に取り組んでいきたい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営を行なっていくうえで 問題や疑問点があれば市町村担当者に実情を伝え、課題解決に向けて、共に取り組む努力をしています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症サポーター養成講座の研修の中で職員一同学びました。成年後見人制度を活用されている入居者様のご家族から情報を頂き、知識を深めています。必要な人には活用できるよう支援していきたいと思えます。		グループホーム独自の研修の中で、さらに知識を深めていきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の尊厳を守る。シルバーハラズメント」の勉強会を再度受講しています。常に虐待についての意識を持続できるよう努力しています。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には管理者・職員が重要事項に基づいて説明を行い、不明な点は随時対応し了解を得るようにしています。解約時はその後の生活について家族と話し合い不安のないように情報提供や援助をしています。		
13	運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、入居者の表情・行動を観察しさりげなく声かけし、意見を傾聴し、家族を交えて話し合う機会を設けています。また定期的な家族交流会の中で気兼ねなく話合える雰囲気作りをしています。		
14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な家族交流会において入居者の暮らしぶりをスライドで紹介しています。預かり金の残高・支出予定、健康状態等は個々に面会時、電話にて報告し入居者の生活に支障のないように配慮しています。年2回のホーム便り「しおかぜ」で近況報告しています。		
15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族交流会で、率直な意見を頂いています。特に、急変時の医療連携については大きな課題であり家族様の意向を取り入れた体制作りに取り組んでいきたいと思っています。		
16	運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新規入居者の受け入れ、職員交代、運営方法等は現場スタッフの意見を取り入れています。日課計画や日々の取り組みについては現場主体で取り組み、対外的な依頼や調整については管理者が行なっています。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤者は夜勤専門の職員ではなく、日勤をすることにより日常の入居者の様子を把握しており、職員数は余裕のあるシフトが組めるよう人員確保し、緊急時には管理者をはじめ近隣の職員による応援体制がとれています。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「馴染みの関係」をモットーに異動や離職は極力ないようにつとめています。やむをえず異動や離職がある場合は引継ぎの期間を十分に確保し、入居者に影響を与えないように努めています。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の質・技術向上のため、認知症実践者研修や認知症リーダー研修等、個々のレベルに応じて順次受講しています。定期的に認知症ケアの勉強会をグループホーム独自で実施し、NHKの介護番組のビデオをとり、研修材料として取り入れています。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>一部の職員ではありますが地域の同業者との交流する機会をもち、勉強会に出席したり、訪問して情報を持ち帰り、全職員に資料を回覧し伝達しています。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>いつでも気軽に話しができる環境作りをし、職員一人ひとりとの面談を行い、悩みやストレスの解消を図っています。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者・職員の勤務状況や個々の努力を把握しています。資格取得に向けての支援を行い、職員が意欲を持って勤務できるようにつとめています。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居にいたるまでに、ご本人からお話を聞く機会をもち、小規模な居住空間、家庭的な雰囲気の中でその人の生活の在り方を受け止める努力をしています。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居にいたるまでに、ご家族様からお話を聞く機会をもち、さまざまな不安、課題を的確に理解し、家族とどのように協同していくのか、実践していくのか、あくまでもご本人を主体とした自立支援をしていきたいと考えます。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の思いと家族の思いの内容の理解、そこにズレがある場合は修正をかけるとともに、他のサービスについての情報提供を行っています。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居契約前に1週間を目処に体験入居を実施し、除々に馴染んでいただけるような工夫をし、家族・ご本人が安心して利用できるよう支援しています。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>尊敬の心を忘れず、共に学び、支え合い、豊かな感性をもって毎日を楽しく、穏やかで、活力ある日常生活が過ごせるよう取り組んでいます。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	常時、家族の意向を聞き入れ、共に考え具体的な介護の在り方を導きだしています。入居者様を「大切な人」と位置づけ、共に安心して生活していくという認識で人間関係を築いています。		
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の家族の在り方を尊重し、理解を深め、家族の関係が円滑に、より良くなるよう支援しています。家族ができること、家族にしかできないことに参加していただけるよう働きかけていきます。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出かけた時は、知人の方々が良く話しかけてくださいます。その折には是非、ホームに遊びに来てくださるよう声かけしています。時より利用者の友人の訪問を受け、ホーム全員で歓迎しています。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	どうしても、人間関係の良し悪しはありますが、入居者同士悩みを傾聴し合い、いたわり合いながら良い関係を築いておられます。職員も随時話の輪にはいって親睦を深めています。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体状況が理由で、併設老人保健施設に入所された利用者、家族様とは継続して良いお付き合いをさせていただいています。退所された方々には本人、家族の意向を踏まえた上で面会に行ってます。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者中心の介護（パーソンセンタードケア）の観点から一人一人の思いや希望を、日々の会話や行動から把握できるよう努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートにおいて地域の中でどのように生活されていたかを少しずつお尋ねし、ご家族、関係者からもプライバシーに配慮しながら情報収集して記録しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	焦点アセスメントシートにおいて、できる活動・している活動・する活動を見極め、個々のリズムにあったその人らしさを大切にしたい取り組みをしています。		
<b>を</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見、思いを反映させ、その人が望んでいるプランにできる限り近づけるように、職員全員が取り組んでいます。		「自分らしく暮らし続けたい」という本人、家族の願いを実現するためにセンター方式（C-1-2）を取り入れる取り組みを考えてます。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い達成度を評価し、より良い計画作りに努めています。さらに入居者様に変化があった時、本人、家族の要望があった時は その都度現状に即した計画を作成しています。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外にバイタル、食事量、水分摂取量、排泄の記録を行い、日々の入居者の体調、行動を観察し、気づいたことや提案を申し送りノートに詳しく書き、情報を共有しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスのレクや行事に参加したり、グループホームの行事に招待したりして地域の高齢者との交流をふかめています。また、セラピストの指導により下肢筋力防止運動を毎日行っています。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に一度、港島ふれあいセンターに赴き、カラオケ、おしゃべりを楽しみ、民生委員の方々にたいへんお世話になりながら地域の方々と交流を深めています。また大学の研修生を受け入れ、4大学地域連携事業の一環として施設見学を受け入れています。		カラオケ喫茶で出会った方々が敬老の日に南京玉すだれやフラダンスを披露してくださいました。大学の文化祭に招待していただき、学生たちと交流する機会を作りたいと思っています。また幼稚園の運動会の応援にも参加したいと計画しています。
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族から通院代行の希望があり、あんしんすこやかセンターに相談の上、地域のサービス事業所を利用できるよう支援しています。月2回の理美容サービスを利用しています。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただくことで情報の提供を受けやすくなり、また他の事業所の取り組みを紹介していただくことも参考になっています。		帰宅願望の強い入居者様を隣接する「ポー愛」の職員の方々が暖かく見守り保護していただくことが度々ありました。



		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営推進会議に主治医も出席していただき、入居者の生活全般に拘わっていただいています。通院に支障のある入居者には往診していただいています。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設施設に精神科の医師が勤務されており、必要に応じて助言を得ることができます。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の老人保健施設との医療連携により医師、看護師と日常の健康管理、相談、手当てができる体制ができています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時のために医療情報シート、介護情報シートを作成し、詳細な情報を医療機関に伝えています。家族との連絡や面会による状況把握に努め、スムーズな退院にむけて対応しています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族交流会において家族との意見交換を行い除々に方向性を見出しています。その折終末期についての確認書に署名、捺印をいただき、全員で重度化や終末期に向けた方針を共有しています。主治医には受診時に日々の暮らしの中での健康管理について、助言、指導いただいています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	面会時、家族交流会において入居者、家族の不安を軽減するため、グループホームでできること、できないことを明確にし、今後の変化について備え、検討しています。職員は介護技術指導マニュアルで 緊急時の対応を学んでいます。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>施設への転所の場合、施設ケアマネジャーとの情報交換を密にして受け入れがスムーズに行くよう努めています。</p> <p>自宅退去の場合は、家族負担の軽減、本人の閉じこもり防止の観点から適切なケアサービスができるよう居宅介護支援事業所に情報を提供しています。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員が居室の出入りをする際にも、ノックや声かけをしています。排泄・入浴等の介助の際には入居者の羞恥心への配慮をしています。言葉の抑制に注意し、入居者のプライバシーを確保しながら職員がその居場所や気配を察知し、見守りが出来る体制づくりをしています。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入所者が安心して生活できる信頼関係を毎日の暮らしの中で構築し、利用者の感じている不自由を察し、支援に結びつけています。入所者がどのような生活を望んでいるかの意思表示が出来るよう支援しています。本人の意向や家族との話し合いを通じて本人の不利をもたらさないよう体制作りをしています。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの生活ペースに合わせた個別的対応をしています。病状をよく理解し、その人の生き方や好みを十分知って、生活を豊かにするよう支援しています。本人のもっている能力を引出し活用を考える支援をしています。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の希望がない限り、訪問業者にて月2回、理容・美容は行なっています。その時には、本人の希望を取り入れ、職員も業者に伝わるよう支援しています。身だしなみに関しても、それぞれの希望に応じ、職員も支援しながら行なっています。</p>		<p>理容・美容は本人の希望で行なっています。入浴時のシャンプー等も本人にあった物を使用し時々行く買い物等で、御自分の希望の服なども買っていただいています。</p>

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食給食の為、料理は月に2度手作りや外食等で楽しんでいただいています。食事の取り分けや、準備、片付け等はそれぞれで行なっていただいています。		手作り料理等をもっと楽しんでいただければと思っています。今は月2回程の料理会や外食ですが、利用者の好みに合った献立を考え、楽しんで行なっていただいています。
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこ等を好まれる方はおられない為、飲み物の好み等を希望に応じて行なっています。それ以外にも本人のお好きなジュース等もお預かりし、希望に応じて飲んでいただいています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれに応じた対応を行なっています。リハパン・パット等の使用も、その人のパターンを把握し、トイレ誘導も行なっています。排便に関しても、パターンを把握し、水分摂取や薬等で調整しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人のペースに応じ、また、その時々々の体調に合わせて休息し、臥床していただいています。夜間に関しても、利用者全ての方が安眠できるように電気の明るさの調整を行なっています。		布団干しや、シーツ交換等、定期的に行い、気持ちよく眠っていただける様支援しています。また安心して眠っていただける様、不安の解消等に努めています。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人のペースに応じ、またその時々々の体調に合わせて休息し臥床していただいている。夜間に関しても入居者全ての方が安眠できるように電気の明るさを調整等行なっている。		布団干し、シーツ交換等定期的に行い気持ちよく眠っていただける様支援している。不安時は話を傾聴するなどして不安の解消をしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活を活気あるものにしていただくために、個人個人の得意な面を活かしてレクリエーションをしています。また、入居者によって行動に制限がある方が徐々に増えていますが、制限と捉えず、出来ることを見出す援助を心がけています。		入居者が、何が出来るか何が楽しいかを常に考えながら、取り組むことを心がけます。


		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて対応していますが紛失などの懸念から基本的にはホーム管理としています。ただ、数名の方は自己管理をされており、それによって安心感を持たれています。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自動車での外出や、付き添いの散歩等を行えているが、入居者の希望に添って行なわれているかといえば、疑問点があります。計画当初から職員のみ意見で行なわれる場合もあるので、改善が必要です。		入居者の行きたい所を中心に外出の計画を立てることが必要と考えています。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	徐々に外出の範囲は広がっていますが、個人個人の行ってみたい所への意見を中心にできていません。		綿密に計画を練って、それぞれの希望を引き出し尊重できるようにしていきます。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は個人の希望で行なっていますが、できやすい環境であるとはいえません。		常に入居者が家族等に電話や手紙を出せるような環境づくりを心がけます。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できる体制作りをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、月1回、併設している介護保険施設と共に、事例検討による拘束に関する、知識を学び実践しています。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室の鍵はかけません。不穩で出て行こうとする利用者には、お話をしたり、散歩に行く等して気分転換をして頂いています。		
67	利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、利用者様の行動、様子、所在地を把握し、事故のない様に職員一同努めています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の管理能力により、大切な品物、思い出の品物は本人管理として、時々居室内を点検して、危険のない様に取り組んでいます。		
69	事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットメモやインシデント・アクシデント報告書、事故報告書の記入を行い、スタッフ同士の情報共有をしています。また、リスクマネジメント委員会研修等の参加を行い、学んでいます。		
70	急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練や研修は行なえていませんが、介護技術指導マニュアルで職員一同、緊急時の対応を学んでいます。		グループホーム独自の知識習得の機会の確保を図ります。AED設置に伴い、消防署よりAEDについての研修を学んでいます。
71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行なっています。		グループホーム独自の、緊急時の入居者を安全な場所へ誘導できるような、マニュアル作成が必要と考えます。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの状態を職員が把握し、家族に随時、報告できる体制をとっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の様子観察をし、異状の発見に努めています。異状に気づいたら管理者に報告し、早期発見を心がけています。		少しの異状でも主治医との医療連携で早期発見を心がけています。
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりがどういう薬を服薬し、今の状態かを把握しています。飲み忘れや誤薬のないように取り組んでいます。主治医とも相談しながら服薬しています。		医療大学との連携で薬の効能・副作用を情報提供されています。
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	家族、主治医とも相談をしながら工夫しています。		水分摂取、運動等を取り入れて対応しています。
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアに重点を置き、夜間の義歯の清潔保存の為、洗浄剤を使用しています。		朝の体操の時間に口腔体操(パ・タ・カ・ラ)を取り入れています。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏食の方もおられるので、声かけをし食べていただいています。		水分摂取も何度も声をかけ、飲み物も色々なものを工夫し、摂取していただいています。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設の介護保険施設とともに感染防止委員会を設置し、参加しています。マニュアルに添い、感染対策を実行しています。		年2回の研修があり、問題の入っているマニュアルで職員全体で学習しています。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫をアルコールスプレーを使用し清掃、まな板をハイター漂白、食器類も漂白をし衛生管理に努めています。		毎夕、シンクの洗浄もしています。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や野菜を植え、季節を感じて和んでいただくようにしています。玄関に飾られている手作りの作品は、利用者様、ご家族様が楽しんでご覧になります。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では毎月ごとに季節に応じて、利用者様の手作りの作品を飾り、ご家族様にも喜んでいただいています。 居間のソファには手作りのクッションやぬいぐるみを置き、落ち着いた空間作りがされています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机、ソファの配置を工夫し、一人ひとりがくつろげる空間作りをしています。窓際には小さなテーブルに鉢植えやぬいぐるみを置き、居心地の良い雰囲気作りをしています。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家財道具、思い出のある品物や懐かしい写真を持ち込んで、落ち着いて暮らせるように工夫しています。 居室にも利用者様の作品を飾り、季節を感じて和んで過ごせるようにしています。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日々スタッフが確認に努め、空調管理に気配りしています。天候に気をつけながら、なるべく自然の風も取り入れるよう配慮しながら、温度調整を行なっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、廊下幅、トイレの広さ等の環境は配慮できています。弱視の入居者のため移動時障害となるものは置かず家具の配置にも気配りしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ位置や各居室のドア横に表札や目印になる作品を張り解りやすいよう工夫しています。 居室には カレンダーや食事の時間を掲示し、時間の認識に繋げています。弱視の入居者のため移動時障害となる物は置かず、ドアノブには鈴をつけています。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	時より ホーム前東屋にて食事をしたり、日光浴をしています。ホーム周りの畑には枝豆、ゴーヤ、なすび、ミニトマトを育て水やり等の世話していただくことで生きがいに繋げています。野菜の成長を写真に撮り記録し、入居者、スタッフ楽しんでます。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域に密着した取り組みを積極的におこなっています。
- ・職員間の人間関係を良好に保ちチームプレイが実践できる努力をしています。
- ・併設の介護老人保健施設があり、医師・看護師への相談や、アドバイスを受けることができる体制です。
- ・ホーム廻りに野菜、果物、草花を育て豊かな感性を育てています。